KANAGAWA POLICE
シンボルマスコット ピーガルくん

煤ヶ谷駐在所

厚木警察署
煤ヶ谷駐在所
編集＊渡部
TEL 046-223-0110

山岳遭難防止のために

◎　登山計画書（登山届）を提出しましょう。

〇　神奈川県警察ホームページからオンラインによる提出も可能です。

神奈川県警察のホームページに掲載されている日本山岳ガイド協会が運営する「コンパス」や、県警察の「登山計画書届出フォーム」を活用してください。

http://www.police.pref.kanagawa.jp/mes/mesg0004.htm

〇　万が一の遭難時に捜索の手がかりとなります。

〇　その他の提出先は、警察本部地域総務課、登山する山を管轄する警察署、登山口にある投函箱です。

◎　単独登山は避け、経験者と同行しましょう。

◎　道迷いによる遭難が増加しています。登山地図、ヘッドライト等の必要な装備品を携行しましょう。

◎　携帯電話等の通信機器を準備し、電池切れに備え予備バッテリーを携行して登山をしましょう。

◎　体力・経験・装備に応じた登山コースを選定しましょう。

◎　夏期は熱中症にならないように水分や塩分の補給にも注意しましょう。

◎　登山前に目的とする山の気象状況等を入手し現地の状況を把握して、場合によっては　中止も検討しましょう。

◎　入山前に装備品を十分点検しましょう。

災害から身を守るために

～　家族で防災会議を開催しましょう　～

日頃の備え

◎　身の安全を確保できる場所を確認しましょう

テーブルの下等、一時的に避難できる安全な場所はどこか、庭のブロック塀等、倒壊の可能性がある危険な場所はどこかなど、家族で確認しておきましょう。

◎　家具の転倒防止等の措置を行いましょう

家具の転倒防止のため、家具転倒防止器具で固定しましょう。また、万が一家具が倒れた場合に備え、安全な家具の配置をしましょう。

◎　地域の避難場所や避難経路の確認をしましょう

地域で定められている避難場所を確認して、一度そこまで歩いておきましょう。

高齢者や子供のいる家庭では、家族の状況に応じた避難手段を具体的に話し合っておきましょう。また、昼と夜では災害の状況や家族の状況も変わってきますので、あらかじめ役割分担を話し合っておきましょう。

◎　家族との連絡方法を確認しましょう

災害が発生すると、被災地等への通信が増加し、電話がつながりにくくなります。

災害時には、NTT災害用伝言ダイヤル「171」や携帯電話の「災害用伝言板」等を活用しましょう。

災害時に慌てないために、防災週間等に家族全員で体験利用をしてみましょう。

災害用伝言ダイヤル、災害用伝言板は、次の期間に体験することができます。

〇毎月1日、15日
〇毎年1月1日から1月3日
〇防災週間（8月30日から9月5日）
〇防災とボランティア週間（1月15日から1月21日）

※体験できる時間等詳しいことは、各会社のホームページ等で確認してください。

事　件　記　録　板

６月中旬から７月中旬までの事件は、

・　７月１２日から１３日に掛けて、下地区で工務店が使用される機械の盗難が発生しました。最近同様の工具等の盗難が発生してます。扉には施錠をするなど盗難防止の措置をお願いします。

※　毎度振り込め詐欺について注意喚起していますが、やはりなくならないんです。皆さん、どうか騙されないようご注意ください。

※　振り込め詐欺等の迷惑電話には、その迷惑電話対応の電話機が販売されています。ナンバーディスプレー契約をし、電話番号の着信の確認が出来て録音をしますとメッセージが流れ、迷惑電話であれば、犯人は録音を嫌い、ここで殆ど一方的に電話を切ると思います。更に声を聞いた上で判断し、最初に１８４（非通知）で掛け直しても、こちらから個人情報を伝えなければ掛かって来ることもなく安心です。

駐在所の独り言　～自立心を殺がず（そがず）動機づけが必要です！！～

先日、緑中学校の保健委員会に出席しました。主に中学生徒の数々の悩みやストレスを抱える子供達にみんなで共に考え解消、解決出来ればという想いで、校長先生を始め、教職員、地域住民、生徒を交えて開催されました。その中で多くは「親から勉強しなさい」と言われるのがストレスだという意見です。そのストレス解消法は、ゲームしたり、テレビを見たり、中には物にあたり、物を投げたりというものもありました。事の良し悪しは別として、自分の気持ちをありのまま、素直に話が出来て素晴らしいと思いましたし、自分の気持ちを伝える事で不登校になったり、殻に籠ることもないと確信し安心しました。自分でも親となり、時代は変わっても親の悩みは同じだと実感しました。勉強しなさいと言われるのがストレスならば、勉強しなくていいよと突き放したらどうなるのでしょうか。もしかしたら突き放された寂しさから逆に親の期待に応えようと勉強を始めるかもしれませんね。こうした対応は、考えるだけで怖いなんて思う人がいたり、無責任だという意見もあるでしょう。中学生は、多感期と呼ばれ多くの悩みや考えを持ちつつも、自立が芽生える時期でもあります。ですから自分自身でも勉強しなきゃと考える時期ですね。勉強しようと思っていたのに勉強しろと言われると、やる気がなくなると言う意見もありました。確か？水辺に馬を連れて行き水を飲ませようとしても飲まないという諺もあったような気がしますが、やはり無理なんでしょうね。勉強しろと叱るのは、程々に本人に任せる事も必要かと思いました。私自身の体験をお話ししますと、途中で頓挫すれば先に進めない大きな障害になるのが算数と捉えて、小学校低学年で興味が沸く程度まで教えました。それだけです。それ以降は勉強しろとも一緒にし勉強することも一切ありません。何故やらなくなくなったかを恥ずかしながら話しますと、親のレベルでは、とても難し過ぎて教えられなくなったというのが現実です。教えられないから勉強しろとは言えなかったのです。算数は、図形問題が多く頭の中で図形を回したりひっくり返したりのイメージ学習、問題の文章の鍵を見つける国語力をつけたり、時間短縮のため公式や方程式を作った事もありました。高学年になると親の力なさから半年間だけ家庭教師を雇って欲しいというお願いがありました。でもその頃になると更にレベルが上がり、家庭教師のセンターでは、教えられる先生がいないと断られ、数ヵ月掛かって見つけた先生は、其有名進学校のトップの成績で現役で東大合格した東大生の中でも突出した優秀な学生でした。内容は、教えるというスタンスでなく、同級生同士での勉強会のようなもので、一緒に協力して問題を解くというものです。中には二人で２時間頑張っても答えが出ない超難問もあり、それが次回までのお互いの宿題です。子供にとって算数は、クイズやなぞなぞのようなゲーム感覚なんです。このような感覚で興味を持てば、決して家庭教師は、必須ではなく、あとは自分で全て出来るのです。更に自信のある教科を持つ事で相乗効果が生れ、意外に簡単と言えるほど全ての教科も出来ようになるんですね。教育は強制でなく、動機づけが大切ですね。

煤ヶ谷駐在所だより　　令和元年８月